

都内の特別養護老人ホームにおける介護労働者の給与モデル調査 ～結果の概況～

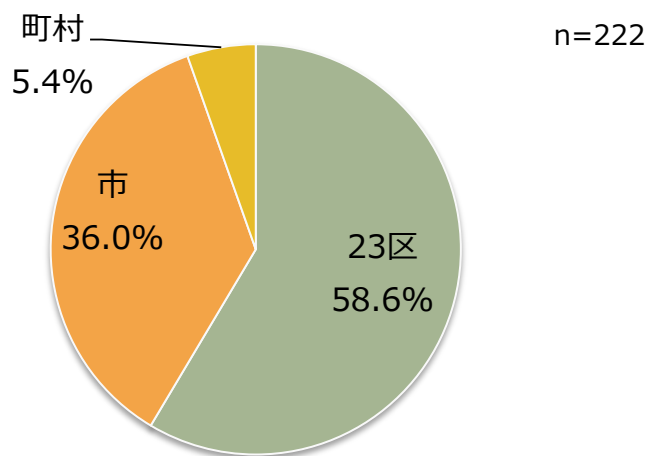
- 調査対象
都内特別養護老人ホーム（478施設 平成27年5月1日時点）に勤務する正規職員で、新規学卒採用後に介護職員として仕事を始め、通算1年間以上介護職員としての経験のある者（1施設につき最大24名）。
- 調査時期
平成27年11月17日～同年12月10日 ※調査回答における基準日は11月1日
- 備考
無回答者がいるため、各回答結果の合計数は、有効回答数と一致しない場合がある。

1 回答数

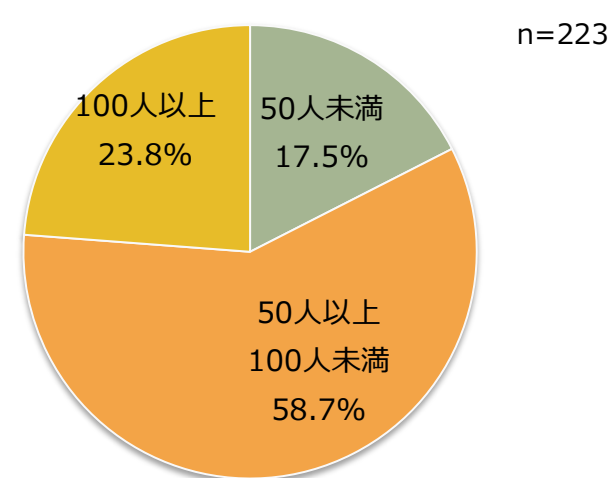
- (1) 回答施設数（回答率）
225施設（47.1%）
- (2) 有効回答数
2,282人

2 回答施設の概況

(1) 所在地の区市町村



(2) 職員数について

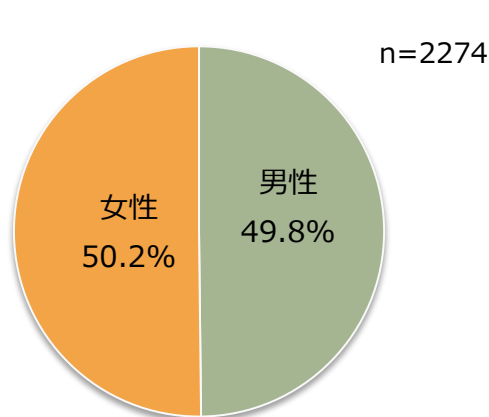


3 有効回答者の概況

(1) 回答者の属性

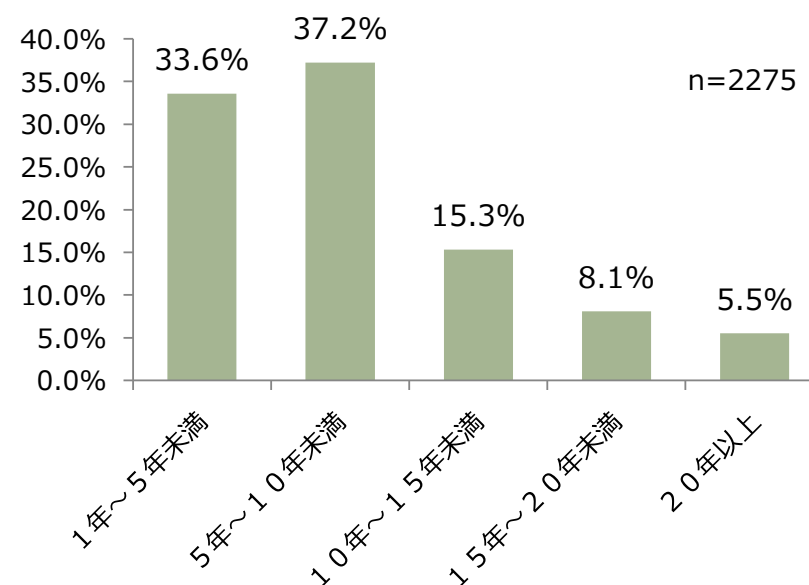
①平均年齢
32.7歳（n=2264）

②性別



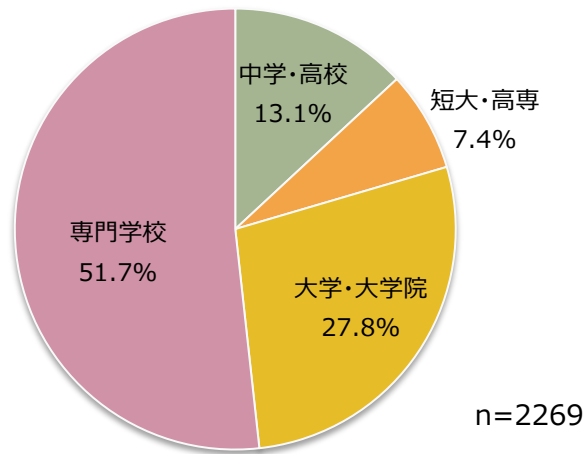
③現所属法人における勤続年数の平均と勤続年数別割合
・平均：8.4年（n=2275）

・勤続年数別の割合

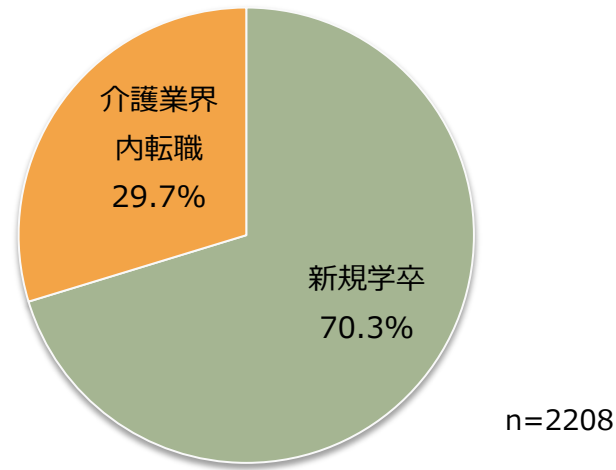


・平均年齢は32.7歳。男女別の人数はほぼ同数となっている。
・勤続年数別では、5年～10年未満の者が37.2%、次いで1年～5年未満が33.6%となっており、あわせると1年～10年未満が70.8%と全体の約7割を占めている。

④最終学歴

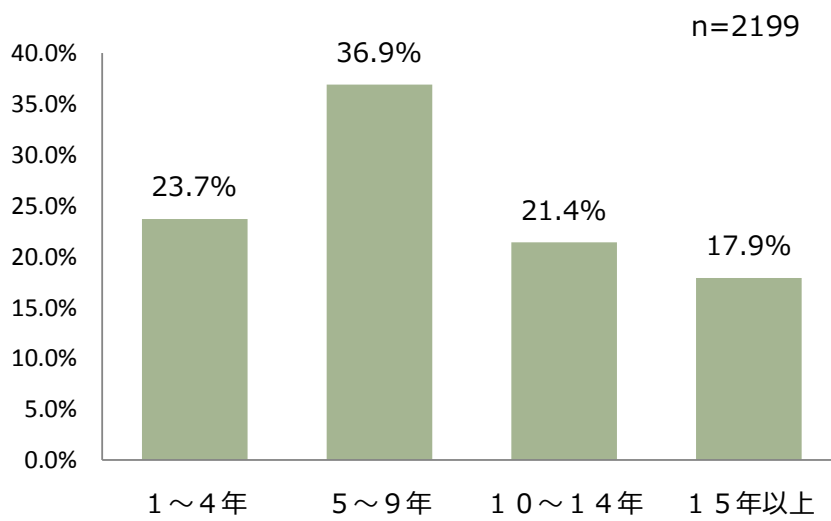


⑤採用形態



・専門学校卒が最も多く51.7%を占め、次いで大学・大学院卒が27.8%を占めている。

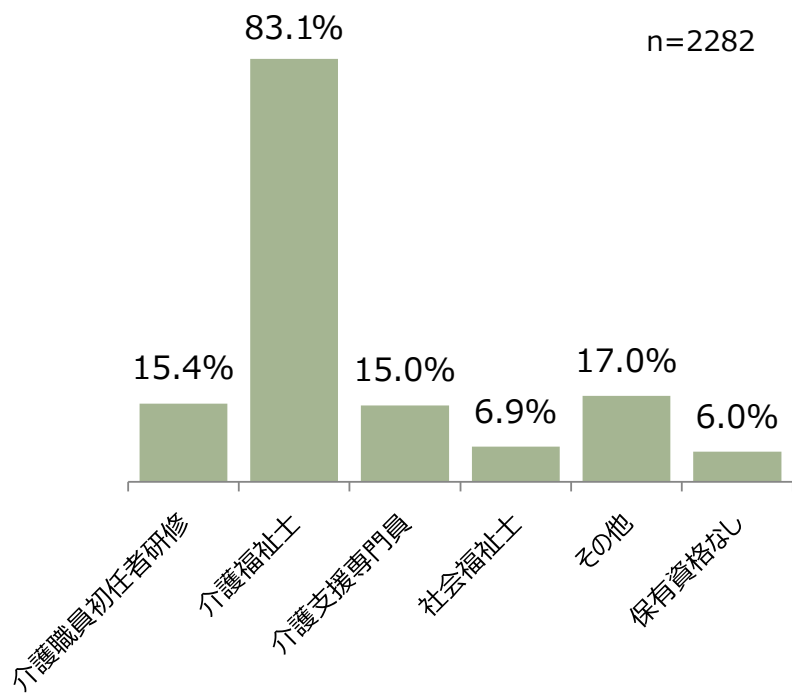
⑥介護職員としての通算キャリア



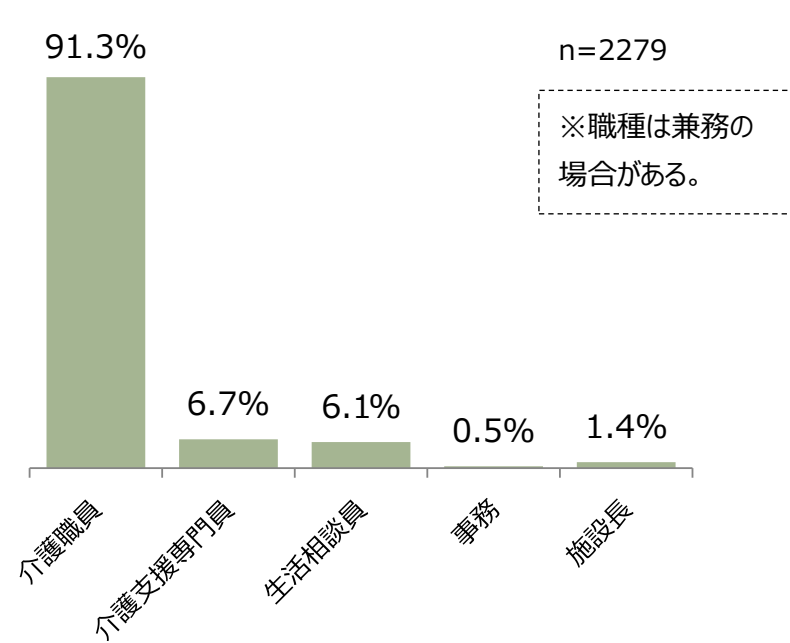
※介護職員としての通算キャリアとは、前職での経験も含め、介護職員としての通算経験年数である。

・通算キャリアは、5～9年が36.9%と最も多くなっている。

⑦現在の保有資格等（複数回答）



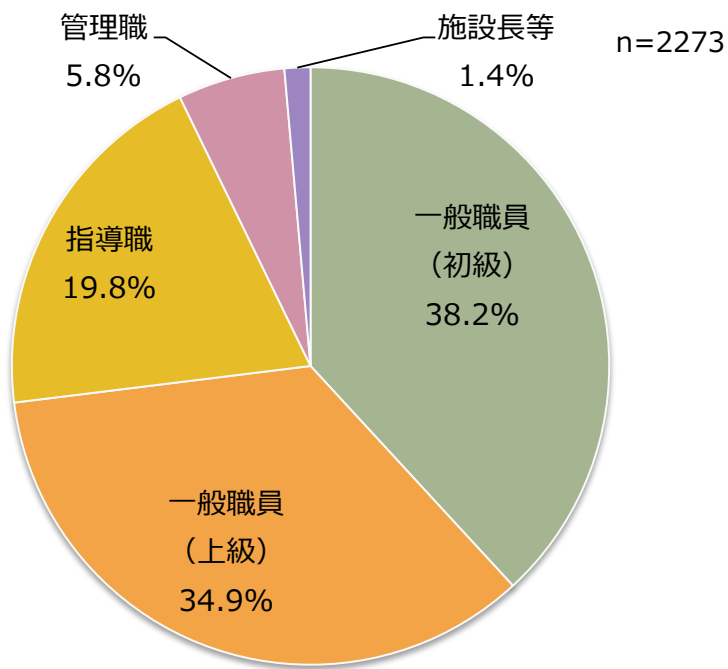
⑧職種（複数回答）



※職種は兼務の場合がある。

・保有資格等については、介護福祉士を保有する者が83.1%と最も多かった。
・職種は介護職員が91.3%を占めている。

⑨職位別の割合

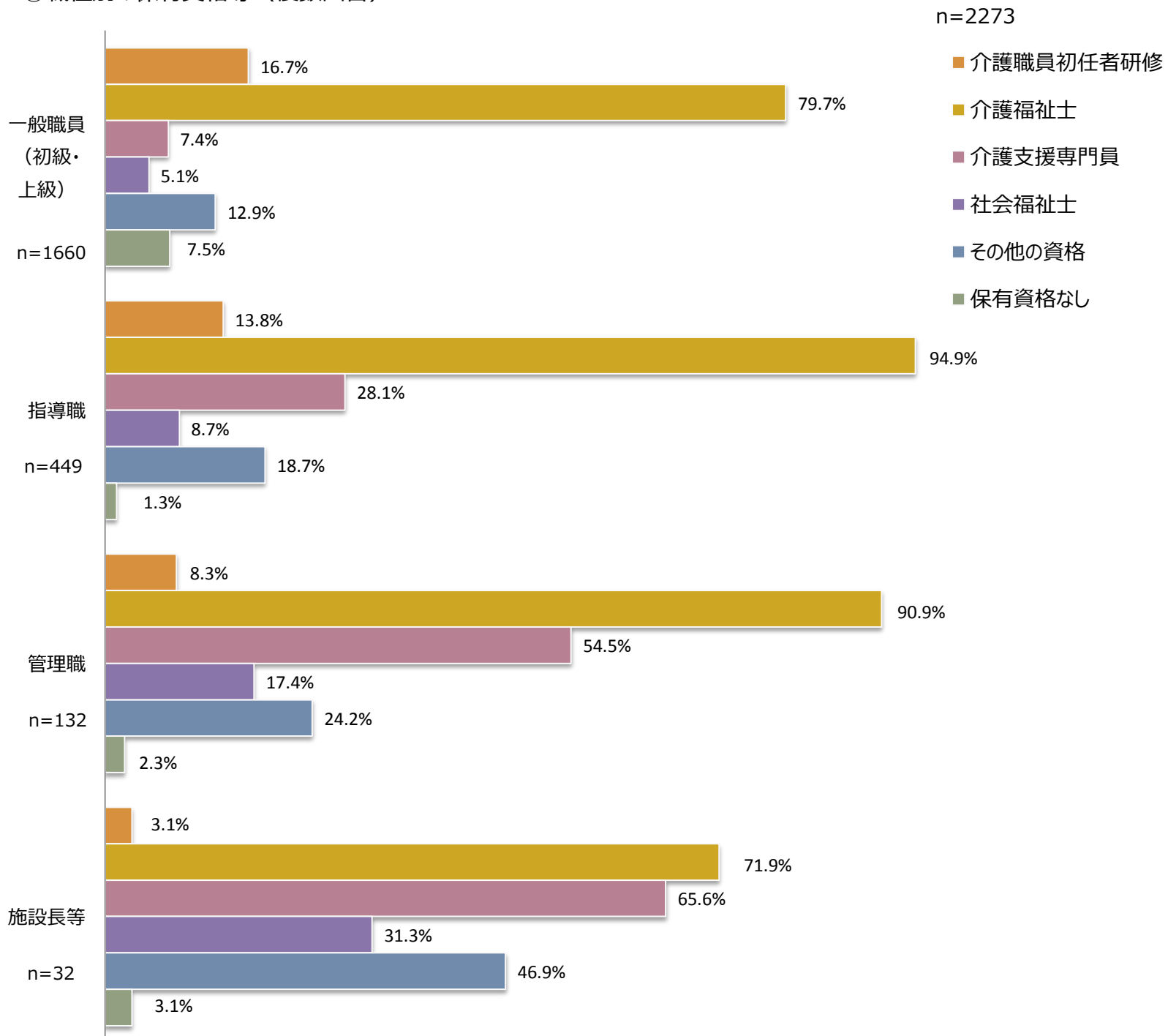


※職位の説明

職位	職責
一般職員(初級)	一般業務(通常の業務に必要な基礎的知識や技術を習得し、日常業務を自律的に遂行する。)
一般職員(上級)	判断業務(高度な知識を習得し、応用的判断を要する業務を遂行する。下位職位職員等に対して助言、相談に応じる。)
指導職(主任、係長等)	指導業務(所属上司の指揮監督を受け、困難業務にあたるとともに、チームリーダーとして担当業務の統括ならびに職員の指導育成を行う。)
管理職(小規模事業所の施設長、課長、部門管理者等)	監督業務(施設長の命を受け、業務をつかさどり、所属職員を指導監督する。)
施設長等	総括監督業務(理事長の命を受け、施設運営の総括を行う。)

- ・一般職員(初級)が38.2%と最も多く、次いで一般職員(上級)が34.9%となっている。
- ・指導職以上の職員は全体の27.0%となっている。

⑩職位別の保有資格等(複数回答)



- ・職位が上がるごとに資格を保有しない者は減り、複数の資格等を保有する者の割合が多くなっている。
- ・保有資格としては、介護支援専門員や社会福祉士が多い。

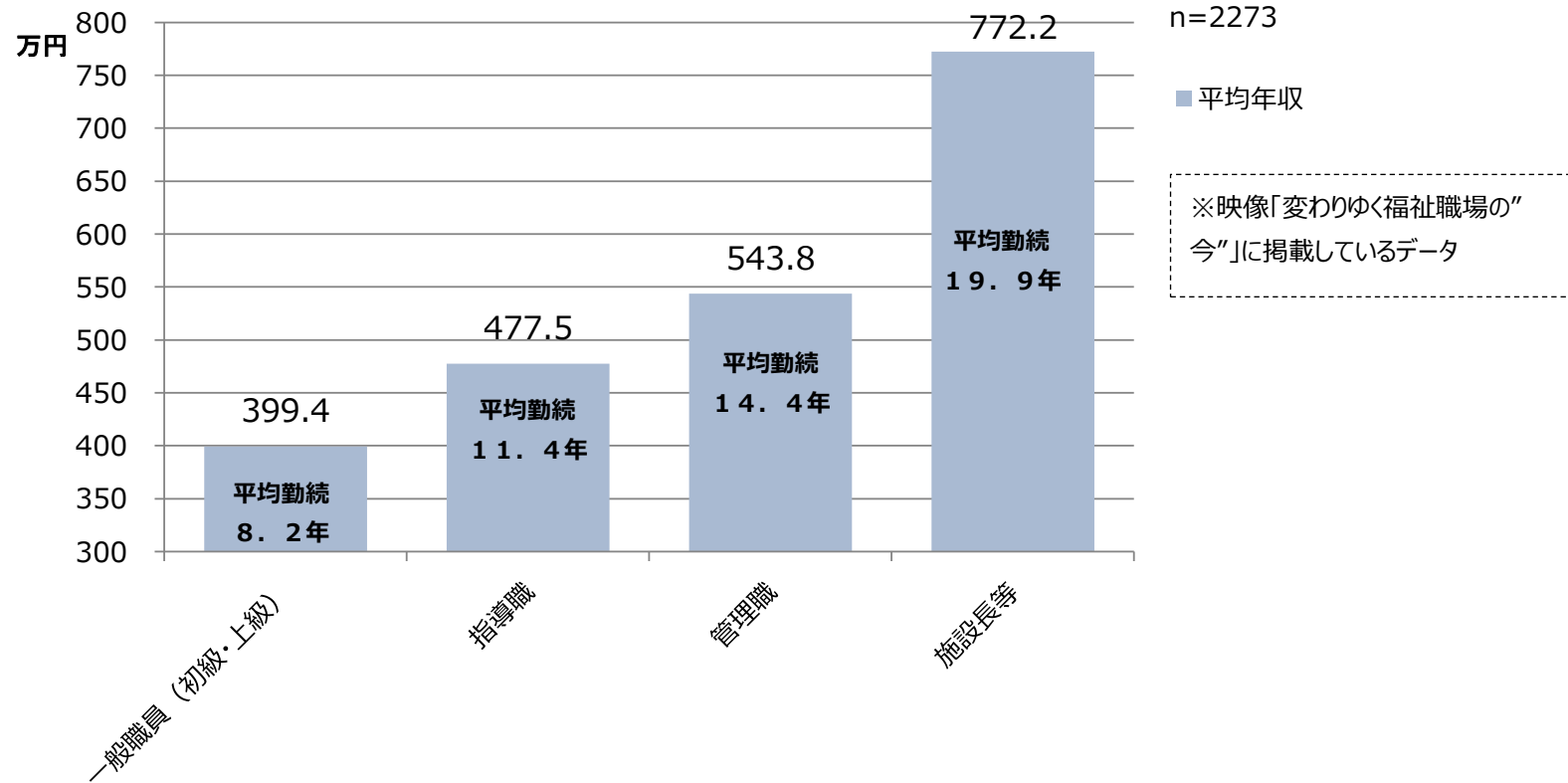
(2) 給与(年収)の状況

①平均年収

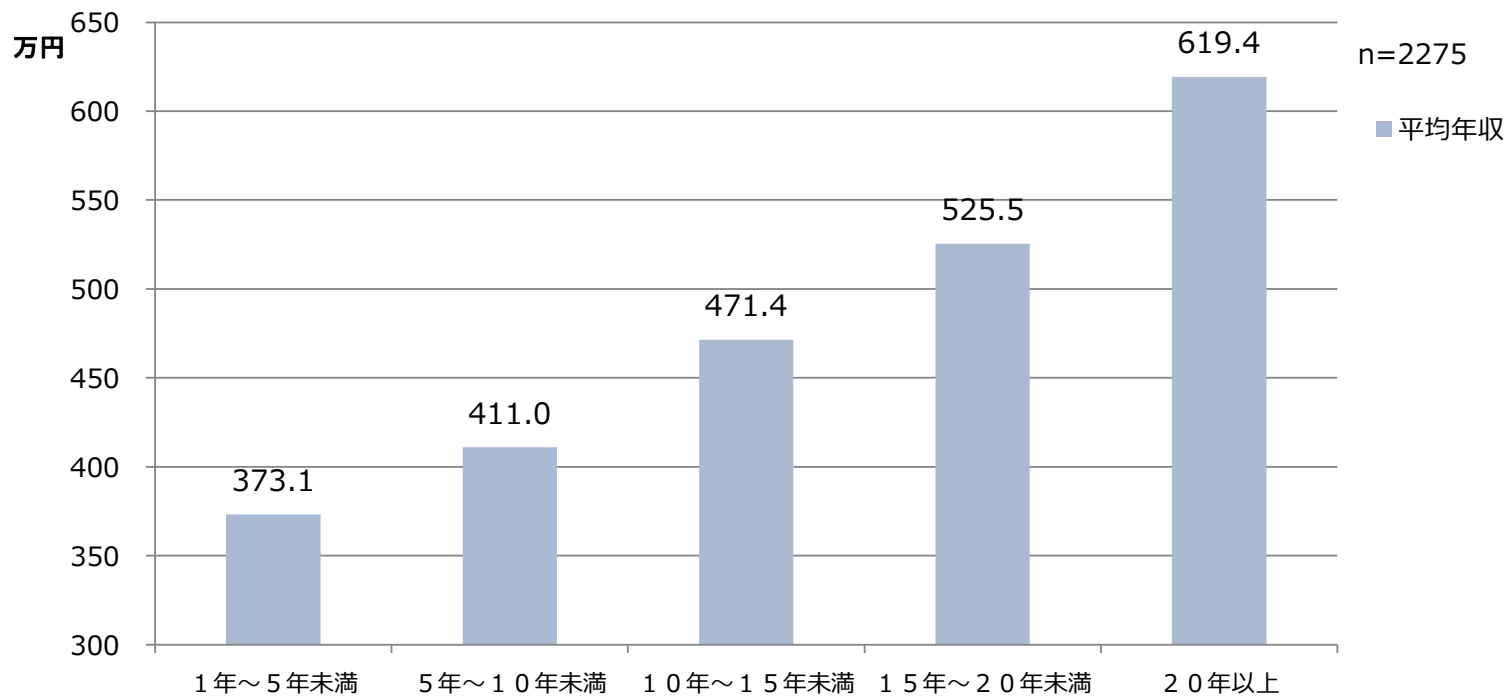
平均：428.2万円
 中央値：406.4万円
 第1四分位数：368.4万円
 第3四分位数：465.0万円

※四分位数とは、データの値を大きさの順に並べたとき、4等分する位置の値をいう。
 ・第1四分位数：下位(中央値より小さい方)のデータの中央値
 ・第3四分位数：上位(中央値より大きい方)のデータの中央値

②職位別の平均年収と平均勤続年数

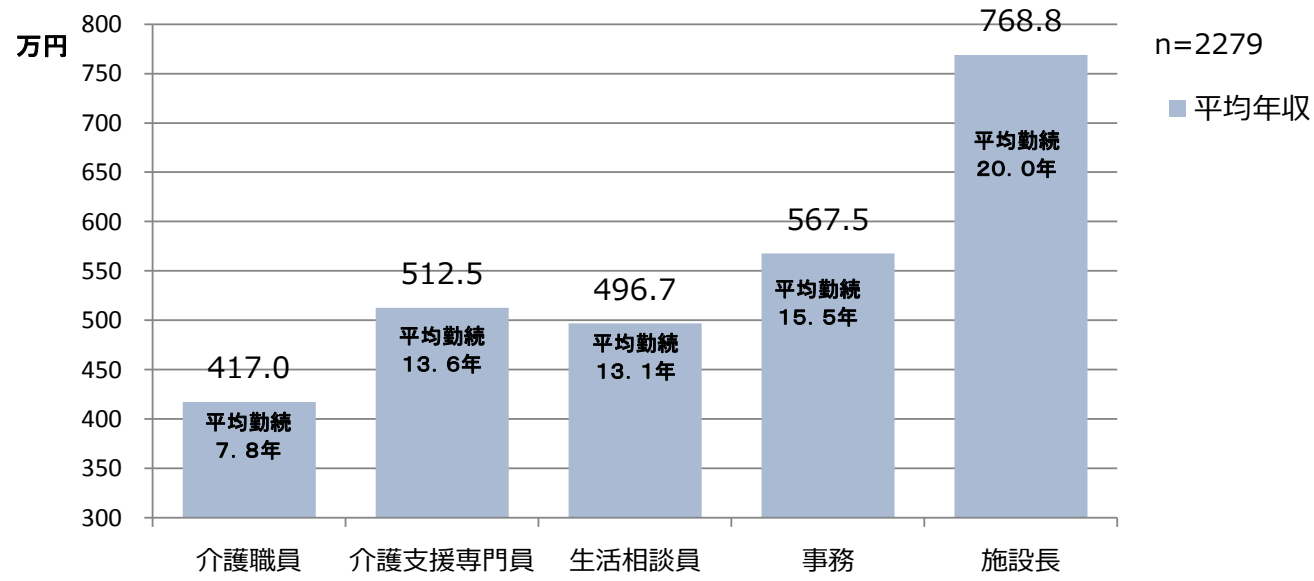


③勤続年数別の平均年収

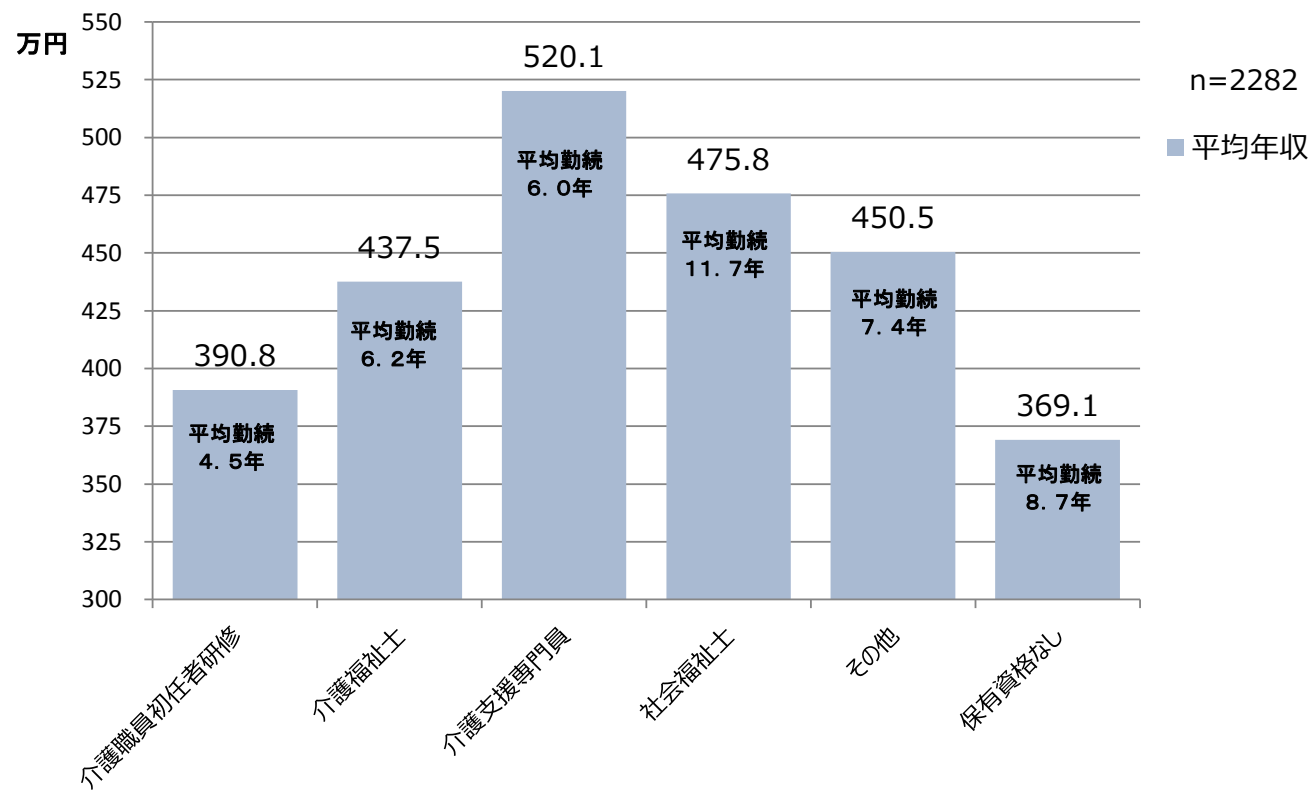


・職位が上がるに伴い、年収も高くなっている。また、勤続年数が長い者ほど年収が高くなっている。

④-1 職種別の平均年収と平均勤続年数（複数回答）



④-2 保有資格別の平均年収と平均勤続年数（複数回答）



・職種別で見ると、介護職員と比べ、介護職員を経て介護支援専門員や生活相談員として働いているの方が、年収が80万円以上高くなっている。
 ・保有資格別で見ると、資格を保有していない者に比べ、介護支援専門員等の資格等保持の方が平均年収が高くなっている。